

令和2年度
簡易版ティーチング・ポートフォリオ

2021年3月31日

幼児保育学科・教授 大橋 誠

1. 教育の責任

本学に入学した学生のほとんどは子どもが好きで一緒に遊ぶことに喜びを感じる学生である。すなわち幼児教育に携わることを実現させたいと願っている。教員はこの学生の願いを実現させるために学生としっかり向き合い指導できるように研究・努力を怠らず、充実した講義を目指す。

本学のカリキュラムに従い、前期は基礎的内容を講義で行い、後期は演習内容を主にグループワークで進める。学生の考え以外にグループの他学生が考えている内容を理解できるように質問・意見でかかわりを持つようにしていくことで、学習の定着を図るようにする。

主体的に予習・復習をし、講義・演習内容をより多く理解し、意見を述べ合うことで、これから幼児教育に関わっていくという意識を強くし、幼児教育実現することをはっきりとめざしていけるようにする。

2. 教育の理念と目的

子どもの心と身体の発達過程、それに伴う様々な変化、悩み、問題行動等多岐にわたり学生にできるだけ多く学ばせたい。普段から子どもに関わり、子どもの行動に興味を持ち、子どもをわかろうとする学生が望ましい。この子はなぜ一人でののか、なぜ一緒に遊ぼうとしないのか、他の子が遊んでいるものをこの子はなぜとってしまうのか、なぜ泣いているのか。学生が子どもと関われる環境にいる場合は比較的容易に子どもを観察できるが、そうでなければ教育実習の時をチャンスととらえ、大いにに関わり、講義・演習で学習したことを確かめ、自分でよく考え工夫してみることで、さらに子どもの理解を深めていくよう助言する。

3. 教育の方法

教科内容の範囲や学習量を確認するためにテキストを使用する。初めのうちは講義・演習時間終了後復習課題を伝え、次時の内容を確認する。このようにして学生が予習・復習を自主的・積極的に進めることができるようにシラバスを参照できているかを確認する。内容の理解を確認するため、講義・演習3回ごとに小テストを講義開始前に実施し、次時に小テストの理解不十分な部分、思い違いが多い部分を中心に解説する。また基準点(60点)に達しない学生にはレポート課題を課す。期末テストは小テストの範囲を含む全体を網羅した内容を課す。

4. 評価と成果

入学当初、学生は高校の勉強の延長と考え、楽観視しているらしく、大学のテストが難しいととらえているが、範囲がわかり、選択問題ではなく講義・演習で確認した内容をもとに自分の考えを述べる形式であることがわかることで、しっかり講義を受けノートにまとめ、

テストの日までに内容を確認してくる学生が多くなっている。それにより、小テストの回数ごとにテストに対する手ごたえを感じるようになってきている。また基準点に達しないためレポート課題を課された学生は、ノート・テキストを確認してまとめることになるが、『その内容から、あなただったらどのような問題を作るのかを考えて答えなさい』とアドバイスすることで、答え方についてポイントを外さないで書けるようになってきている。個別で指導するときは研究室に来てもらっているが、学生の空き時間と指導者の空いている時間が合わず、十分とは言えないが昼休みに指導することが多い。学生の中には成績が向上し、予習・復習が集中してできていると話す学生も出ている。喜ばしいことである。

5. 今後の目標

講義・演習及び教育実習で学生自身が教育愛をどのくらい意識して学びを深めているのかを今以上に確認できるように課題を持ち寄りグループでの話し合いを活性化させる。

青森の保育事情を知るために情報に敏感になり、集めた情報をもとにまとめ、プログラムに乗せ「学びの青森化」に生かせるようにする。

学生のチーム力を伸ばし、社会人としての一般教養を身に着けるなど絶えず高い意識を持った学生をめざすように指導する。

6. その他

教育に関する情報だけでなく、社会情報を柔軟に受け止め、今後の講義・演習などにも活用できるのではないかという意識を常に持ち、新しい成果を吸収していける教員をめざす。

I C T活用が十分とは言えないため機会をとらえ学習していく。